

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	令和7年度 朝霞市立朝霞第六小学校第3回学校運営協議会	
開催日時	令和7年8月22日（金） 13：15～14：45	
開催場所	朝霞市立朝霞第六小学校 多目的室	
出席者及び欠席者の職・氏名	学校運営委員7名、事務局2名、本校職員 〈委員〉 ・渡邊由恵副委員長・前田敏委員・尾池富美子委員 ・吉山隼人委員・金子夕介委員・相澤めぐみ委員 ・小島孝之（校長） 〈事務局〉 ・池崎敏博 高木智（教頭）篠崎 宏美（主幹教諭） 〈欠席者〉 ・渡邊聡委員長	
議題	【本校職員との意見交換会】 1 開会のことば 2 校長挨拶 3 出席者の自己紹介 4 各グループでの話し合い 5 話し合われたことの全体共有 6 校長より 7 閉会のことば	
会議資料	なし	
会議録の作成方針	☐ 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	☐ 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	☒ 要点記録	
	☐ 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	☐ 会議録の確認後消去 ☐ 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 委員長による確認	
傍聴者の数	5人	
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

- 1 開会のことば
- 2 校長挨拶
- 3 出席者の自己紹介
- 4 各グループでの話し合い

Aグループ

- 5年生防災の学習でお手伝い等できないか。（学校、町内会、市役所との連携）
 - テントの設置場所などを再確認する。（防災意識を高める）
 - 学校と家庭での防災意識を高める。
 - 在宅避難の大切さを理解する。（我が家の防災リーダーズ）
- 商店等とつながる工夫はないか。
 - 前朝霞駅前商店街でイベント（チエノワ）を活用する。
 - 老舗のお店とはつながられる（本町、駅前）お店の裏側、商工会に直接連絡をとる。
- 子どもにもとめるものは何か。
 - あいさつをしっかりとる。（家庭での徹底！）
 - 朝霞の曲を令和でアレンジする。（子どもに歌詞を考えさせる）
 - 朝霞市内共通で盛り上がるものを考える。（地域と学校が連携してつくる）
- 地域との運動会は可能か。
 - 運動会は学校が運営しているので地域が入りづらい雰囲気がある。

Bグループ

- メイ朝霞センターの活動にはどのようなものがあるか。
 - 38年間、マレーシアに絵を手渡しで届けている。外務大臣賞を受賞している。
 - 9月に朝霞第五小学校で授業をする。
 - 日本の絵よりマレーシアの絵の方が上手であるがメイ朝霞はそこを求めている。
 - マレーシアは、視覚伝達要素が高い（はっきり、しっかりと）日本の作品は、地域性もある。
- 学校運営協議会ではどんな話をしているのか。
 - 学校が提示した話題について、その人の立場やその人から見えること、意見を伝え合い、考えを足していく。
 - 自分の子どもがいるわけではないけれど、六小の児童が安心・安全に行けて、学校生活が充実するようにたくさん考えてくれている。また、六小の子ども達のためだけでなく、全国の子どものことを考えている。
 - 「未来あり」のために考えてくれている。地域には、私たちと同じ熱量で子どものことを考えてくれている人たちがたくさんいる。

Cグループ

- 地域や保護者にこれまでお願いしてきたこと。
 - 総合的な学習の時間での安全面の見守り（まちたんけん、紙づくりのミキサー、草木染め等）
- 課題 子どもと話し合いながら進めていくので依頼が遅くなってしまう
 - 水泳の授業
- 課題 高学年では、お父さんに手伝ってもらうことにお母さん方からの不安の声があがる。
 - 家庭科 裁縫や調理実習
- 新たに依頼できること

→プールでの自習監督のお願い。時間交代で自習監督とプールサイド両方お願いする。

→運動会の準備、教員だけでは難しいもの（はちまきなど）

→年度当初からゴールデンウイークまでの1年生の下校補助

○応援団さんの声

→子どもの様子、子どもが活動している姿を見たい。トイレ掃除など、子どもとは別の作業に対する不満の声もある。多くの方が、最終的には子どものためだと考えてくださっている。

→クラスごとの依頼（町たんけんなど）が難しい。クラスによって参加できる人数にばらつきがある。

→これからは、クラス単位の依頼であれば、まずはクラスの中で声をかける。クラスでも集まらなければ、学校応援団さんに依頼をする。

→保護者の方だけの活動、保護者の方だけに責任をお願いしてしまうようなことをなくす。

Dグループ

○地域と学校の関わり

→校外学習の引率、1年生：プールのお手伝い、家庭科の授業、ミシンや裁縫、ミシンを業者の前に保護者の方に見ていただく、火器を使う実験、保護者の職業によって机上の学習だけでなく生の学習ができる。

○青年会議所

→青少年の育成、街づくり、20～40歳 指導力・リーダーシップ、人づくりをする。単年度制（毎年トップが変わる。トップによって方針が変わる。）

→今年是对面、人と人とのつながりを大切にしたい。階段アート

○総合的な学習の時間について

→子どものやりたいことが学校だけではできないことがある。スペシャリストの伝手が教員にはない。印刷技術などもない。大企業だと子どもから生まれた意見が即日実現できない。

→継続的な支援をしてほしい。子どもが作った→評価してもらう。

→子どもの活動の中で教員にはできないことを担ってほしい。

→ストリートテラスで売る活動

→地域ができることを知っていくこと。どうつながっていくか。

Eグループ

○学校からのPTAの方々へのお願い

→授業の補助、図工など準備・片付け等に時間を要するため毎時間来てくれたら大変嬉しい。

→我が子のクラスに行くと、親は我が子に付きっ切り、また子も甘えてしまう場面がみられる。

→PTA役員に進んで担当する方はごく一部に限られる。

そのため、PTA運営側より、上記の関することは事前に説明しお願いはしており理解してもらえるように努めている。

○PTAのメインの仕事、年度予算について知りたい。

→会費回収や定例会、メール対応等している。

→会費については払わないご家庭がいる。

→年間10万を設けている。今年度のサンダル（クロックス）購入の経緯については学校からの依頼で対応し、以前の対応工数が減り、現場負担が減っていると聞いている。本件

は来年度予算も組んでいる。単年度だけの問題ではない。ずっと続けていきたい。
保護者から来るメール対応については、例として、『バスケットゴールを新しくしてほしい』、『バスケットゴールいらない』、『PTAというものが不要』などのメールが来ている。

○PTA予算と学校予算の違いが知りたい。

→各学校に共通してあるものは学校予算、それ意外はPTA予算で賄っている。

○授業参観について公開日を分散するのはどうか。

→土曜日の公開授業のために授業を準備している点もある。普段の授業を見せて、子どもたち実態を見せるべきではないか。先生たちが本当に大変であることをもっと伝えたいほうが良い。

○なぜ夏休みのプールがなくなったのか。

→気温の上昇、設備維持の費用、教員の負担軽減

○救急救命講習の件

→具体的な救命講習をシミュレーションしながらチームを分けておこなうことができる。

○家庭訪問の廃止について

→個人情報保護の観点から、6小では昨年からは実施しなくなった。

○緊急連絡網は必要か

→保護者の立場として、うちの子が何かした際に、やはり連絡を取りたい。

○指導の一面として

先生)

○消防体験について

→所属が消防署なので、柔軟に対応はできる。

F グループ

○児童委員との話し合い

→関わり方が家庭によって異なる。中学卒業までを見通して。どう接すればよいか、就学予定の管理職とも連携する。地域から学校のことで連絡が多数あれば、学校に来校することもある。どのように手伝いができるのか、共有し合いたい。

→登校しない間の様子を聞く、家庭内の状況により原因を解明。家の様子を実際に見に行く場合もある。

→いじめ事案が発生したのか確認。ない場合、家庭に何か原因があることの方が多い。日常生活が送れない、発達に理由があることもある。

児童委員→5つの地区各2名ずついる。ネグレクト、DVなどの大きな問題に発展しないときの学校間との連携が難しい。教員の多忙につながる。

→仕事の関係で、親が子どもを見てあげられない。朝、通学班の様子を見に行くだけでも違うのでは。時間までに通学班の待ち合わせ場所に行けたらよい。

→学校としても未就学児検診に来ない家庭の様子を見に行きたい。人を派遣したところで、通報したのかと少し大きな問題に発展することはできれば避けたい。方法がない。

→学校に登校できるが一番。登校することが困難なら、別の場所で学習できる場所が増えて欲しい。

→親が子どもを放置している状況の家庭は虐待の疑いがある。精神状態による。教員の助けが必要である。

5 話し合われたことの全体共有

6 校長より

7 閉会のことば